教育のぼりべつ

令和２年
3月10日
NO.25

発行；登別市教育委員会 TEL. 0143-88-1100　〒059-0014 登別市富士町７丁目33番地

登別市立幌別東小学校 開校５０周年記念式典を開催

登別市立幌別東小学校の『開校５０周年記念式典』が、１２月１日（日）同校体育館にて、挙行されました。当日は、在校生や卒業生、地域住民、教育関係者約２００名が出席し、開校半世紀の節目を盛大にお祝いしました。

式典では、記念協賛会の山田正幸会長及び坂本博校長の挨拶や、小笠原春一市長からの祝辞、感謝状が贈られる歴代校長やＰＴＡ会長の紹介の後、児童発表が行われ、在校児童による「呼びかけ」や記念映像の上映後、幌別鉄南地区連合町内会が、毎年、児童に伝承している郷土芸能「駒おどり」が披露され、子供たち自らの演奏に合わせて、勇壮に駆ける馬を見事に表現していました。



学校長式辞



郷土芸能「駒おどり」

姉妹都市小中学校交流事業【ふるさとのまちを語る交流事業訪問団】表敬訪問

１１月２９日（金）、宮城県白石市から２名、神奈川県海老名市から２名、計４名の生徒と引率の先生方による交流事業訪問団一行が、登別市教育委員会を表敬訪問しました。

本市における姉妹都市小中学校交流事業は１９９２年度（平成４年）から白石市と実施。２０１７年度（平成２９年）からは、海老名市も加わり、３市で交流しています。



当日は、武田博教育長からの歓迎の挨拶後、４名の生徒たちそれぞれから、登別市の印象や宿泊先の登別温泉に入った感想、これからの交流時における抱負や期待等が述べられ、この交流事業に対する生徒たちの熱い思いがひしひしと伝わってきました。

表敬訪問後、交流事業訪問団は、交流先の幌別中学校において、自分たちのまちや学校の様子について、互いに紹介し合うなどして、親交を深めていました。

登別市におけるアイヌ文化の紹介

登別市は、アイヌ民族で初めてアイヌの物語を文字化し、和訳した『アイヌ神謡集』の著者知里幸恵、その弟でアイヌ語学者の知里真志保、２人の伯母で膨大なアイヌの物語を記録した金成マツを輩出したまちです。

小学校では、４年生で副読本を使ってアイヌの人々の昔の生活の様子や生活道具等について学ぶほか、中学校では、歴史分野でアイヌ民族の歴史や文化等をより詳しく学習します。

登別市内には、アイヌ文化に関わる貴重な資料や生活道具等を展示している「郷土資料館」や「知里幸恵　銀のしずく記念館」などがあり、富浦墓地には知里幸恵や金成マツのお墓等もあります。

また、新年度には、隣接する白老町に民族共生象徴空間「ウポポイ」がオープンし、敷地内には「国立アイヌ民族博物館」も開館します。小学校では、新年度より新学習指導要領が全面実施され、アイヌ民族に関する学習が必須となります。

子供たちには、地元の博物館や史跡等に足を運んで自らの目で確かめ、自らの体験を通してアイヌ民族の歴史や文化、多文化共生等の大切さを学び、理解を深めていくことを期待しています。



「知里幸恵･銀のしずく記念館」貴重な展示物の数々



「登別市郷土資料館」所蔵のアイヌの生活道具や資料

ひなわしメート「もちつき会」を開催

「放課後子ども教室」は、登別市教育委員会が地域住民の協力を得て、放課後に子供たちが安心して活動できる場として開設しており、鷲別地区「ひなわしメート」と幌別東小学校区「はまなすメート」の２ヶ所で、それぞれスポーツ活動や文化的活動、地域住民との交流などを実施しています。

そのうち「ひなわしメート」では、例年、登山や流しソーメン、もちつき会や豆まき会等を実施しており、１月１０日（金）には、鷲別小学校を会場として、恒例の「もちつき会」が開催されました。

今年は、昨年度より子供たちの参加者も増え、お手伝いを含めると１００名を超える人数となりました。もちつき開始まで子供たちは、ALT と一緒に英語による読み聞かせやゲームに楽しく取り組みました。また、もちつきは一人７回ほど順番につき、美味しいおもちが出来上がりました。

そして、スタッフが準備してくれたおしるこやお雑煮をおなか一杯になるまで何杯もおかわりして、みんなで楽しくいただき、どの子も大変満足していました。





令和元年度 北海道教育委員会「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校

登別市立幌別西小学校・幌別小学校　合同学校公開

登別市では、北海道教育委員会指定の「学校力向上に関する総合実践事業」に、幌別西小学校では「授業改善」を中心に、幌別小学校では「人材育成」をねらいにすえて、それぞれの学校で全校体制のもとで研究実践に取り組み、１月２９日（水）幌別西小学校を会場に、授業実践及び研究の成果等を「合同学校公開」として発信しました。

授業公開校の幌別西小学校では、研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」～児童が学びを実感できる学習活動の工夫を通して～と設定し、授業改善に向けた様々な取組の様子を「特設授業」「公開授業」として全学級で公開しました。また、全体会では学校力向上の実践発表として、幌別小学校の教諭による「道外視察研修報告」があり、横浜市における人材育成の実践例等が紹介され、学校全体で主体的・計画的に人材育成に取り組むことや、教職員一人一人が学び続ける意識をもつことの重要性が再認識されました。その後、授業改善部会と人材育成部会で、ワールドカフェスタイルによる課題別分科会が行われ、テーマに基づいて活発に意見が交換されていました。



登別市教育実践研究奨励校
登別市立鷲別中学校　公開研究会

２月２１日（金）鷲別中学校において公開研究会が開催され、今年度より中学校において全面実施となった「特別の教科　道徳」の授業が学年毎に公開されました。本校では、平成２９年度より研究主題を「自他を尊重し、よりよく生きようとする生徒の育成」と設定し、道徳の時間における主体的・協働的な学びを通して、その具現化に努めてきました。

今回の改訂では、道徳的な課題を自分自身の問題として捉え、それに向き合い、「考える道徳」「議論する道徳」の授業へと質的転換を図ることが求められています。当日は、インフルエンザの関係で、残念ながら２年生の授業が非公開となりましたが、大変意義深い公開研究会となりました。







英検チャレンジ事業の実施について

登別市教育委員会では、英語学習に対する子供たちの意欲の向上や英語教育のさらなる充実を図るため、今年度より市内８小学校の４年生全員を対象として「英検 Jr.学校版ブロンズテスト」を実施します。

「英検 Jr.学校版ブロンズテスト」とは、児童の英語能力の調査・研究を目的に、英語に親しみ、外国の文化を理解することを目標として開発された、児童向けの「育成型ゲーム感覚」のリスニングテスト（聞き取りテスト）で、小学校での英語活動を１年半から２年程度受けている児童を対象としています。

登別市教育委員会では「英検 Jr.」を実施し、小学校で行われてきた外国語活動の成果を客観的に検証・分析することにより、今後の英語学習において、いっそう英語に親しんだり、ALT と進んで関わったりすることなどを通じて、英語に対して苦手意識をもつことなく、中学校以降も、楽しみながら英語を学ぶことができる教育環境づくりにつなげていきたいと考えています。

「英検 Jr.」の特徴

●１００％リスニング形式　英語活動の入門期に最も大切だと考えられている、リスニング力を図る形式のテストで、CD から流れる英語を聞いて、それに合ったイラストに丸を付ける簡単な回答方法で、時間は約30分です。

●合否のない「育成型」　「できた！」という喜びを実感させ、それが英語の学習の動機付けになることが英検 Jr. のねらいであり、そのため成績は、合否ではなく「正答率」で示されます。

●オールカラーテスト　問題用紙はカラー印刷で、児童の興味を引くイラストにより、楽しい感覚で取り組むことができ、人物や背景をしっかり把握して答えることができます。



真剣に取り組む子供たち（２月４日 富岸小学校）